

# 森林除染

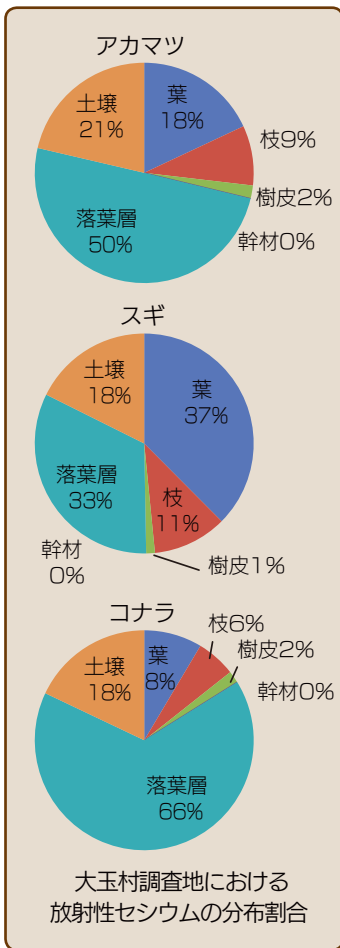
## 実証試験結果

林野庁は、東京電力福島第一原子力発電所の事故による森林における放射性物質の分布状況の調査と除染の実証実験を行っています。平成23年末現在での結果を前号に引き続き紹介します。

### ◆森林内の放射性物質の分布状況

福島県内の3箇所(川内村、大玉村、只見町)で、樹木の各部位(葉、枝、樹皮及び幹)、落葉層及び土壌ごとの放射性セシウム濃度を調査するとともに、森林内全体の放射性セシウムの蓄積量を調べました。その結果は次の通りです。

\*樹種別の森林内の放射性セシウムの分布割合は、スギやアカマツの針葉樹林では樹冠の葉や地上の落葉層に、落葉広葉樹林(コナラ)では落葉層にそれぞれ多く分布。(大玉村調査地)



### \*スギ林の調査地別・部位別の放射性セシウム濃度は、空間線量率が高い調査地ほど高い結果。

(川内村が最も高く、次いで大玉村、只見町の順)

### \*樹木の部位、落葉層及び土壌ごとの濃度と単位面積あたりの

それぞれの重量から計算した森林全体の放射性セシウム蓄積量は、東京電力福島第一原子力発電所に最も近い川内村調査地が最も多い結果。(川内村(約138万ベクレル/m<sup>2</sup>)、大玉村(約8~12万ベクレル/m<sup>2</sup>)、

只見町(約2万ベクレル/m<sup>2</sup>)

※詳細はこちらをご覧ください。

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/111227\\_2.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/111227_2.html)

### ◆森林の除染実証試験結果

福島県郡山市内の針葉樹林(スギ・ヒノキ人工林)とコナラが優占する落葉広葉樹林において調査点を中心20m×20mの正方形の調査区を設け、それぞれ下草と落葉を正方形の範囲を徐々に広げて取り除いた場合の空間線量率の変化、除去により発生した下草・落葉の量を測定しました。

その結果、除去範囲が拡大するにつれ、調査点における空間線量率は低下し、除去前の空間線量率(地上1m)と比べると、針葉樹林では約7割(除去前:0.77μSv/時→除去後:0.57μSv/時)に、落葉広葉樹林では約6割(除去前:1.22μSv/時→除去後:0.77μSv/時)まで低減しました。

また、除去により発生した落葉等の重量は、20m×20mの範囲で針葉樹林で約1112kg、落葉広葉樹林で約1270kgとなりました。

なお、除去にあたっては、降雨により表土が流出して、森林保全に影響があったり、放射性物質が再拡散したりしないように、様子を見ながら徐々に除去面積を広げていくことが適当と考えられます。

※詳細はこちらをご覧ください。  
[http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/111227\\_1.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/111227_1.html)

